





廣川一男さん〈70歳／会社役員〉株式会社 宮本村  
定年後、私の勤めは地域づくり  
活躍の場は会社からふるさとへ

イベントへの出店や公園の清掃業務などを通して地域の活性化と発展を図るため、長岡市宮本地区住民の出資により平成2年に設立されたまちづくり会社「(株)宮本村」。廣川さんは、ともに宮本地区で生まれ育った親友からの誘いをきっかけに設立時から出資者のひとりとして活動に参画。「よく学びよく働いて会社に貢献し、定年後はそれまでの経験を活かして生まれ育った宮本地区に恩返ししたい」といつも考えていました。旅行会社などを経て退職後にUターンしてからは会社員時代の経験を活かし、ビジネスの視点から(株)宮本村の活動を後押し。代表の右腕として組織運営を支えています。

「健全な組織運営のために、売り上げなどの数字をチェックすることが大切」と言いながらも、常に意識しているのは数字の背景にある現場の様子。出店するイベントなどには

積極的に出向き、お客さんの反応を肌身で感じ、そこで得た気づきをもとに改善を繰り返します。「徹底した現場主義と数字への意識は会社員時代に培いました。現場に行ってお客様の気持ちにならないといいモノが生まれにくいのは、まちづくりでも同じですね」。ビジネスの環境で磨かれたサービス提供の先にあるお客さんへの意識が、持続可能な経済循環を伴う「コミュニティビジネス」的な組織運営につながっています。

「自分の経験を地元のために活かすことができ最高に幸せだと思います」と話す一方、70歳を過ぎ次世代へのパトタッチの意識は日々強まっています。「いまの若い方は以前とは違い、地域のために割ける余裕が少ないのかもしれないですね…。知識や経験をふるさとに還元することの喜びを若い方に伝えていきたいです」。

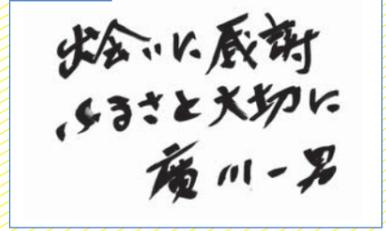


●上：(株)宮本村名物、ジャンボ鍋とともに市内外のイベントへ出店。まちづくり会社として、食を通して地域を盛り上げるほか、イベント出店後は懇親会を欠かさず、地域住民との親睦を深めています。●左：(株)宮本村の株主総会で収支報告をするのも廣川さんの役目。「持続的な経営が何よりも地域貢献」との意識から、日々の経営状況に目を光らせます。●右：旅行会社に勤めていたころも、今と変わらず現場のお客様との交流を大切にしていた。

profile

- 1947年 長岡市宮本町生まれ。(株)宮本村の代表・深見氏とは幼馴染の同級生で、当時から気の合う親友。
- 1970年 国鉄系の大手旅行会社に入社。人生の計画を立て、「定年後は地元で貢献する」と心に決める。
- 1990年 (株)宮本村設立。ひとりの株主として活動を支援。当時は転勤で地元を離れており、限定的な関わりしかできなかった。
- 2016年 大手旅行会社を退職後、幾つかの旅行・観光開発の会社及び団体を経て、(株)宮本村の専従役員に。

活動の根っこ



赤川美穂さん〈41歳／看護師〉みんな大学@越後長岡、Nagaokaみんなの子育てラボ  
「自分を変えたい」と踏み出した一歩が転機に  
市民活動から見えてきた本当の自分

幼い頃から好奇心はあるものの、内気で人の輪に入るのが苦手だった赤川さん。大人になり仕事をする上で、人との距離の取り方や人付き合いが悩みました。そんな自分を変えたいと思っていたとき、偶然見つけた『みんな大学@越後長岡』のイベントに参加することに。この一歩が赤川さんを変えました。「“みんな大”をきっかけに、人付き合いの楽しさや距離の取り方、人との繋がりの大切さを学びました。ここで得たことが仕事やプライベートでも活かしています。最近では参加者側としてだけでなく、企画側としてイベント運営の裏方にも挑戦中。市民活動の新たな楽しみ方を感じています。

赤川さんが大事にしているのが“ご縁に感謝すること”と“自分の直感”。昔はイイ子でいるため、自分の意志よりも正しいか・正しくないかで物事を選んでいました。今は直

感で自分が楽しいか・楽しくないかで選択するように心がけています。「市民活動を通して出会った方々のおかげで自分を認められるようになりました。自分に素直に生きれば苦悩も受け止められます。今が一番自分らしく、楽しく暮らしている気がします」。

さらに「受け身な自分を変えたい」と『Nagaokaみんなの子育てラボ』を設立。まちなかキャンパス市民研究所への参加を経て、研究の成果を子育て中の親たちに届けようと、そのときの有志メンバーと立ち上げました。「表に出る立場で何かをするのは初めて。好奇心も恐怖感もありますが、今のメンバーとならやっていると良かったです。子育てがもっと楽しくなるような活動を細くても長く続けていくことが目標です」と前向きに話す赤川さんの今後の活躍が楽しみです。

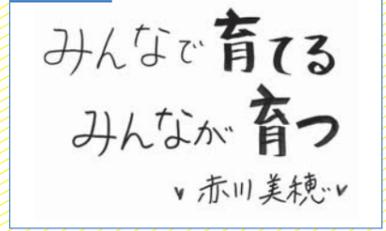


●上：市民研究所メンバーとの集合写真。メンバーとは刺激し合えるいい関係。●左：変わるきっかけとなった“みんな大”の最近行われたイベントの一コマ。現在も積極的に参加しています。●右：幼い頃のお子さんと2ショット。赤川さんは「娘が大人になったときの選択肢が広がったら…」と思い、できる限りイベント等には一緒に参加するように心がけています。

profile

- 1976年 東京都生まれ。2歳のときに父のUターンで長岡市に移住。専門学校卒業後も長岡市内で働く。
- 2013年 初めて「みんな大学」のイベントに参加。たくさんの人との出会いや気づきを得る。
- 2016年 まちなかキャンパス市民研究所「みんなで育てる・みんなが育つ」に参加。
- 2017年 市民研究所のメンバーと有志団体『Nagaokaみんなの子育てラボ』立ち上げ。

活動の根っこ



生の声は「ラジオ」「コライト」で!

団体PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

特定非営利活動法人ピュアはーと

苦手なことに寄り添って、できることにはほとんど光を当て



特定非営利活動法人ピュアはーとは、青葉台地区を拠点に、地域活動支援センターや放課後等デイサービスなどの事業を通し、障がいのある人たちに、地域の中の居場所を提供しています。さをり織りの作業や、体力づくりのランニングなど活動の積み重ねにより、できることが増えていく姿に活動の意義を感じています。これからも、1人1人の可能性に光を当て、社会の一員として豊かに暮らせるよう、応援していきます。

川口そばネット

そば打ちでつながる地域の輪



川口地域の和南津地区と田麦山地区、木沢地区などのそば愛好家団体や個人が「一緒にやってみたら?」という声から集まり2011年の年末に発足した「川口そばネット」。同地域で開催されている雪まつり「雪洞火ぼたる祭」では、2012年からそばの出店をしています。寒空の下食べる、手打ちの熱々そばはお客さんからも好評!各地区のそば打ち技術を参考にし合い、研究を重ねることで腕に磨きをかけています。

木楽な会

木のぬくもりを次世代につなぐ



平成20年に大工や左官工といった越路地域の建築職人が集まり設立。ものづくりや建築について考え、意見を交わしあったり、地域イベントに参加・協力するほか、木工製作を通じて地域貢献をしています。作製した木製遊具を活用して、木に楽しく触れる機会を提供することにより、多くの子どもたちが建築やものづくりに興味を抱くことを願っています。職人の遊び心を大切にしながら活動を続けます。

ヌジュム・アレヤーリ

ダンスで非日常を演出



きらびやかな衣装をまとい、アラブの曲にあわせ華麗な踊りをするベリーダンス。同じダンススクールの卒業生が集まって作ったサークルで活動し、6年以上が経ちました。ヌジュム・アレヤーリとは、アラビア語で「夜の星」を意味します。当時のダンス講師が、一人ひとり星のように輝いてほしいと名付けてくれました。市民活動フェスタや中之島まつりに出演し、ステージを盛り上げています。

長岡企業のソーシャルアクション!

地域活動を支える企業をご紹介します

杉山工業株式会社／駐車場・トイレなどの一般開放

会社を地域に“ひろく”ことから

和島地域の本社近くを拠点に活動する市民団体のイベント時に、駐車場とトイレを一般開放したり、収穫した野菜の洗い場を提供しています。市民活動により景観が守られ、活気が戻っているのでお互い様の気持ちです。一般開放するのは休業日で社内が慌ただしくないので、大きな負担や混乱はありません。「社会貢献」と構えず日々コミュニケーションの延長で私達にできる貢献をしています。

